

質問件名 高齢者も家族も幸せに暮らせるまちづくりを

【質問要旨】

長生きできることは喜ばしいことであり、老いても住み慣れた場所で見慣れた顔の人たちと共に楽しく暮らせる地域があることは、市民の幸せにつながります。しかし、現実にはひとり暮らしや高齢者のみ世帯の増加や共働きの増加など家族のあり様の変化に社会制度が追いついていないことで、さまざまな課題も出ています。介護保険制度はこうした問題の解決のために、家族だけによらない介護の社会化を理念に始まりましたが、見直しのたびに制度が複雑化しています。

その背景には財政事情をもとに社会保障費の伸びを抑制しようとする財務省の圧力があることは間違いありませんが、いっぼうで政治の問題として何を政策の優先とするか、負担と給付の関係などめざすべき社会像についての市民的議論も必要です。

地域包括ケアシステムの地域像は、まさに自治とささえあいの思想をもとに描かれており、生活者ネットワークのめざすべき社会とも重なりますが、その姿は本来、介護保険制度だけでなく障がい者福祉や子育てなども含む地域福祉そのものともいえるものです。自治と参加を目指す市政においては、厚生労働省から降りてくるものを執行するという発想でなく、全庁的に地域包括ケアシステムをまちづくりに利用するという姿勢で取り組んでほしいと思っています。

その上で、介護については専門性を重視しながら日常生活支援総合事業をうまく組み合わせるというコーディネート力が試されています。高齢者の健康維持と、介護が必要になったときに当事者も家族も安心できる体制づくりを目指し、以下の通り質問します。

- ① 介護予防・日常生活支援総合事業を当事者や家族にとってよりよいものにするために、生活支援コーディネーターを各圏域に配置することが必要と考えるが、人員増についての実施予定は。
- ② 介護予防・日常生活支援総合事業での基準緩和による訪問・通所型サービスについての課題は。
- ③ 介護予防・日常生活支援総合事業の住民主体の支援や、一般介護予防事業の地域介護予防活動支援事業など地域包括ケアシステム構築における社会資源の発掘や育成については、介護保険担当部署だけでなく、社会参加という視点で市民活動支援センターや公民館、社会福祉協議会ボランティアセンター等との連携が重要と考えるが、現状と課題は。
- ④ 介護のために仕事を辞めなければいけない介護離職をなくすために訪問介護・看護の充実が必要だが、現状の課題と対策は。
- ⑤ 特別養護老人ホーム（小規模を含む）やグループホーム増設の予定は。
- ⑥ 男性介護者は介護者全体の3割と言われているが、男性介護者を支援する事業の現状と課題は。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

2016年11月17日 小平市議会議長 殿

小平市議会議員 氏名 日向 美砂子

受付番号【 】

26	25	24	23